

日本人中医診療記

その 15【最終回】

天津中医薬大学 柴山周乃

2015年8月12日午後11時半頃、天津市滨海新区の危険物倉庫で大規模な爆発事故が発生しました。映画のワンシーンではないかと思わせるような映像は、中国国内にとどまらず、日本ほか世界各国に発信されましたので、本当にたくさんの方々からお見舞いのお言葉をいただきました。私はそのころ、夏休みで一時帰国していましたが、テレビから映し出される映像は目をおおいたくなるような惨状で、滨海新区の病院で研修している同僚は？ 滨海新区で働く日本人駐在員の方たちは？ 完成間近の大学第4附属病院は？ と、いても立ってもいられませんでした。運よく同僚や知人たちは無事でしたが、大きな被害を受けた現場の復旧にはまだまだ時間がかかりそうです。

今年も例年どおり10月1日から7日まで1週間の国慶節休暇でしたが、10月5日夕方、中国中医科学院の屠呦呦終身研究員・首席研究員がノーベル医学生理学賞を受賞したという嬉しいニュースが舞いこんできました。わが大学の張伯礼学長は中国中医科学院の院長も兼任していますので、発表当日は夜中までマスコミ対応に追われ、ちょっとお気の毒でした。翌朝一番のCCTV（中国中央テレビ）のニュースで、学長が興奮気味にコメントを発表していましたが、



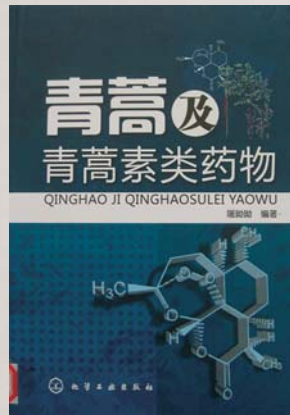
屠呦呦先生と
張伯礼学長

2015年11月17日：原稿受理

そのなかで「世界に向け中医の扉は開かれた」と言っていたのが印象的でした。今年3月末に中国・海南島の博鳌（ボアオ）でボアオ・アジア・フォーラムが開催され、学長は開会式前日のブラックファースト・ミーティングで「未来に向けて：中医薬の国際化」についてレクチャーしました。そのときの「中医薬の国際化が必要なのではなく、世界が中医薬を必要とする」という発言からわずか半年後に、その言葉を裏付けるような屠先生のノーベル賞受賞は、中医薬を学ぶ学生、中医薬に従事している私たちにとり、とても嬉しい出来事でした。

3年前、中国の作家・莫言氏がノーベル文学賞を受賞したあと、彼の著作が爆発的に売れました。屠先生は発表論文・著作ともにとっても少ないといわれていますが、代表作に『青蒿及青蒿素類薬物』（上写真）があります。私もさっそく図書館でその本を借りて読んでいますが、前半の生薬青蒿はまだしも、後半の青蒿素の記載部分はあまりにも専門的すぎて中国語で理解するのはとても困難です。一般の読者にとってもわかりで、専門家以外『青蒿及青蒿素類薬物』を手取る人はほとんどいないようです。ところが、屠先生が『肘後備急方』治寒熱緒瘧方に記載されている“青蒿一握，以水二升漬，絞取汁，尽服之”（蒿一握，水二升で以って漬し，汁を絞り取り，之を服用し尽くす）という一句からヒントを得て青蒿素の抽出に成功したということがニュースで報道されるや否や『肘後備急方』に火がつき，しばらく買い求める人が多かったようです。

今回はホットな話題，青蒿（セイコウ）についてお話しします。



生薬・青蒿



青蒿^{*1,2}

【基本原料】 キク科・黄花蒿 *Artemisia annua* L. (クソニンジン) の地上部分。

【性 味】 性は寒，味は苦・辛。

【帰 経】 肝・胆・腎経。

【効 能】 清透虚熱・涼血除蒸・解暑截瘧（截瘧：マラリア治療。瘧＝マラリア）。

【主 治】

1. 温邪傷陰・夜熱早涼：温邪が傷陰し，夜間に発熱し朝には解熱する。
2. 陰虚発熱・勞熱骨蒸：陰虚による発熱，勞熱骨蒸（種々の慢性虚弱疾患に伴って現れる発熱症状で体内から蒸されるような熱感）。
3. 外感暑熱・発熱口渴：暑邪による発熱，口渴。
4. 瘧疾寒熱：マラリアによる寒熱往来。

【用法と用量】 6～12 g を煎じて服用。ただし，長時間煎じてはいけない。あるいは，生の青蒿の絞り汁を服用する。

【使用上の注意】 脾胃虚弱，腸滑泄瀉（下痢）のものには使用しない。

【現代研究】

1. 化学成分^{*3}：セスキテルペノイド (Sesquiterpenoid)：Artemisinin, arteannuin A, arteannuin B, arteannuin C, arteannuin D, arteannuin E, Artemisinic acid など／フラボノイド (Flavonoid) ／クマリン (Coumarins)：Scopoletin など。
2. 薬理作用^{*2}：①抗マラリア作用，②抗癌作用，③抗住血吸虫症作用，④抗病原微生物作用，⑤解熱，抗炎症作用，⑥免疫力増強作用，⑦心血管系への作用（心拍数減速，心収縮力抑制，冠血流量の減少），⑧ループス腎炎への作用。
3. 臨床応用：①マラリア，②抗住血吸虫症，③急性肝炎，④全身性エリテマトーデス (SLE)，⑤鼻血，⑥口腔扁平苔癬，⑦流

行性結膜炎。

【副作用】 毒性は低い。ごく稀に、悪心・嘔吐・腹痛・下痢が現れる。青蒿素注射液は、アレルギー反応を引き起こすこともあるので、使用する際には注意が必要である。

以前、第10回エッセイで、自分の例をケーススタディとして带状疱疹の中医治療を紹介しました。2度目の带状疱疹治癒から6年経ちますが、6月になんと3度目の带状疱疹を発症してしまいました。学長がずいぶん心配して中薬を処方してくださいましたが、そのなかに「青蒿」が処方されていたので、簡単にその弁証論治についてお話します。

【初診時現歴】 2月に日本で内視鏡下左右副鼻腔手術(ESS)を受け、天津へ戻ったあと、3月に咳ぜんそく、4月に喉頭炎を発症し、かなり免疫力が落ちていた。そのうえ、5月中旬から1カ月近く、連日夜中の騒音公害に悩まされ気分的にイライラしていた。また、疲れやすく、かつ睡眠不足で、疲労困憊していた。6月中旬、右上腕部内側にピリピリとした悪心を伴う不快な痛みを感じ、皮膚上に赤い帯状のすじが出現。徐々に範囲が広がり、腋下・胸脇にまで痛みと赤みが及ぶ。納呆、悪心、不寐、二便調、舌質淡、顫動舌、脈細。

【症候分析】 術後で気血両虚、気分的にイライラしていたため肝気が鬱結し、それが続き化火し、肝経に火毒が滯積して、腋下・胸脇に带状疱疹が現れた。肝は魂を蔵し、心は神を蔵す。火毒が神魂を乱し、心神不安となり、不寐、気血不足で脾の運化機能が失調して、納呆、悪心が現れた。舌質淡、顫動舌。脈細は、気血両虚の象。

【弁証】 気血両虚・肝経鬱熱証。

【治法】 補気補血・清熱解毒・祛風止痛。

【処方】 柴胡15g、半夏15g、黄芩20g、玄参15g、土茯苓20g、生黄耆30g、当帰12g、白花蛇舌草30g、青蒿15g、地膚子20g、白鮮皮20g、白芷15g、細辛3g、甘草6g。

7剤、水煎、1日2回温服(1剤2日分:1剤3回煎じ、4回分取る)。

【処方解釈】 柴胡・半夏・黄芩: 带状疱疹患部が腋下・胸脇なので和解少陽の小柴胡湯をベースに、補気補血・清熱解毒、また皮膚疾患と風邪は密接に関係するため祛風薬を処方する。土茯苓: 解毒除湿、生黄耆: 補気、当帰: 補血、白花蛇舌草: 清熱解毒、青蒿: 清虚熱・解毒、地膚子・白鮮皮: 学長が湿疹・蕁麻疹など皮膚疾患に必ず使う対薬(地膚子: 皮膚中の湿熱・風邪を取り除く、白鮮皮:

清熱瀉火・祛風解毒), 白芷: 祛風止痛, 細辛: 祛風止痛, 甘草: 緩急止痛・調和緒藥。

【経過】 発症日からアシクロビル® 200mg (7日間) とメチコバル錠® 0.5mg (30日間) を服用。中薬服用3日目から痛みは徐々にやわらぎ, 2週間で赤みと痛みはほぼ消えた。6年前, 顔・頭部の帯状疱疹が治まったあともしばらく顔面の神経痛が続いたが, 今回は神経痛の後遺症はなかった。

帯状疱疹が完治し, ホットとしたのも束の間, 夏休み帰国中に口腔扁平苔癬を発症してしまいました。日本の歯科でデキササルチン® を処方してもらい使用していますが, いっこうに良くなりません。「青蒿」は口腔扁平苔癬の治療効果があるというデータもありますので, 「青蒿」を試してみようと思います。

以上, 今回は青蒿についてお話ししました。

【全国名老中医张伯礼教授学术传承工作室】

週一	08:00 12:00 14:00 17:00	张伯礼 张俊华 B区4诊室(1) B区4诊室(2)	08:00 12:00 14:00 17:00	江 丰 B区4诊室(1) B区4诊室(2)
週二	08:00 12:00 14:00 17:00	殷本利 江 丰 B区4诊室(1) B区4诊室(2)	08:00 12:00 14:00 17:00	殷定利 曹洪波 B区4诊室(1) B区4诊室(2) 学术交流 B区4诊室(1) B区4诊室(2)
週三	08:00 12:00 14:00 17:00	张俊华 江 丰 B区4诊室(1) B区4诊室(2)	08:00 12:00 14:00 17:00	曹利华 泰山周乃 B区4诊室(1) B区4诊室(2) B区6诊室(2)

張伯礼教授學術傳承プロジェクト外来

17:00						17:00	
周 三	08:00 — 12:00	 华 声 瑜 副主任医师 中医内科学、 中西医结合临床 主 治：感冒、冠心病、慢性胃 炎、糖尿病、失眠、笔 书、陈忠主任等。	 江 丰 医学博士 中西医结合临床 教授学术传承人 主 治：高血压病、糖尿病、 冠心病、卒中、冠心病 等。及冠心病高危等 预防性健康管理。			周 六	
	14:00 — 17:00	 泰山周乃 中医学、医学博士 小兒科 主 治：高血压、糖尿病、笔 书、陈忠主任等。及进行 抗衰老医学研究。	 江 丰 医学博士 中西医结合临床 教授学术传承人 主 治：高血压病、糖尿病、 冠心病、卒中、冠心病 等。及冠心病高危等 预防性健康管理。				

外来診察担当プレート

2011年9月にスタートした「中国名老中医 張伯礼教授學術傳承プロジェクト」のミッションが5月に無事終了しました。それに替わり、今度は「張伯礼労働模範・中医薬イノベーション」という天津市のプロジェクトがスタートしました。向こう3年間、9人のメンバーとともにいい結果が出せるよう力を尽くし、同時に自分も成長できたと思います。また、念願がかない、独り立ちして“張伯礼教授學術傳承プロジェクト外来”に出ることになりましたが、健康第一を肝に銘じ、マイペース・ゆったりペースで過ごしていきたいものです。

さて、2011年の創刊号から15回にわたり「日本人中医診療記」をお届けしてまいりましたが、今回をもちましてペンを置かせていただくことになりました。機会がありましたら、またなんらかのかたちで中国の中医薬事情をお伝えしたいと考えております。4年間お付き合いいただき、ありがとうございました。それでは皆さま、ごきげんよう。

祝愿大家 身体健康，生活幸福！

文献

- * 1 高学敏主編：中薬学。中国中医薬出版社，174-175，2002
- * 2 高学敏・鐘贛生主編：中薬学。人民衛生出版社，549-552，2000
- * 3 屠呦呦：青蒿及青蒿素類藥物。人民衛生出版社，28-29，2009



プロフィール

柴山周乃（しばやま・ちかの）

愛知県名古屋出身

1996年 日本航空株式会社・国際客室乗員部退社

1999年 天津中医学院（現天津中医薬大学）本科入学

2006年 中華人民共和国・中医医師資格取得

2010年7月 天津中医薬大学・中医内科学博士課程卒業

修士課程は天津中医薬大学第二付属病院・循環器内科杜武勲教授に師事、「糖尿病性心疾患の中医病機メカニズム及び臨床治療」を研究。

博士課程は天津中医薬大学・張伯礼学長に師事、「中医および漢方医学による心疾患・脳血管疾患治療」を研究。現在は、引き続き張伯礼学長に師事し外来で診察および中国人学生の講義を担当。